

関東・東北方言における動詞ラ行音節の撥音化と促音化 – COJADSデータより –

佐藤久美子（国立国語研究所・非常勤研究員） satok@ninjal.ac.jp

撥音化と促音化

- 撥音化「分か^んない」（分^らない）
- 促音化「来^っから」（来^るから）

背景

- ラ行音の撥音化および促音化は日本の各地に見られる。（上野 1989）
- 関東地方（大橋 1974, 1989）
 - ・ 栃木・茨城で最も盛んである。
 - ・ 千葉では他県で撥音化が起こる環境で促音化が起こる。「そ^っでも」
- 神奈川（日野1989, 木川・久野2012）
 - ・ ナ行音節の前以外の環境でも撥音化が起こる。

目的

1. 撥音化・促音化の地理的分布
2. 撥音化・促音化の相関関係
3. 撥音化・促音化の環境の方言差

方法

COJADSからデータを抽出、方言間対照
 撥音化：動詞未然形(ra)-ない
 促音化：動詞終止形(ru)-助詞

COJADS, Ver. 2022.03

データ：1977年～1985年（文化庁）

検索：中納言 2.6.0（国語研）

撥音化 __n

	割合	数
青森	10.0%	9/90
岩手	50.0%	8/16
宮城	91.1%	51/56
秋田	0.0%	0/12
山形	12.5%	1/8
福島	94.0%	63/67
茨城	94.9%	94/99
栃木	95.0%	19/20
群馬	24.4%	63/258
埼玉	25.0%	2/8
千葉	66.3%	59/89
東京	16.0%	20/125
神奈川	31.1%	14/45

促音化 1 __t, k

	割合	数
青森	0.0%	0/32
岩手	94.1%	16/17
宮城	93.8%	90/96
秋田	0.0%	0/2
山形	100.0%	1/1
福島	98.1%	101/103
茨城	73.2%	71/97
栃木	53.3%	16/30
群馬	1.8%	9/503
埼玉	10.5%	2/19
千葉	63.1%	82/130
東京	5.0%	13/258
神奈川	2.1%	2/96

促音化 2 __d, g

	割合	数
青森	0.0%	0/19
岩手	0.0%	0/9
宮城	83.9%	47/56
秋田	0.0%	0/10
山形	76.6%	36/47
福島	0.0%	0/3
茨城	0.0%	0/6
栃木	—	0/0
群馬	0.0%	0/20
埼玉	0.0%	0/2
千葉	45.5%	10/22
東京	—	0/0
神奈川	—	0/0

データのまとめ

撥音化 __n

高 東北 | 宮城, 福島（南東部）
 関東 | 栃木, 茨城（北部）

低 東北 | 青森, 秋田
 関東 | 群馬, 埼玉, 東京, 神奈川

促音化 __t, k

高 東北 | 岩手, 山形, 宮城, 福島
 関東 | 茨城

低 東北 | 青森, 秋田
 関東 | 群馬, 埼玉, 東京, 神奈川

促音化 __d, g

高 東北 | 山形, 宮城

※そもそも数に大きな差がある。

- ・ 山形, 宮城, 千葉：__t, k/d, g どちらも促音化
- ・ 岩手(, 茨城, 福島)：__t, k のみ促音化
 ※茨城では、__d, gの一部で撥音化

データの補足

● 神奈川「ク^ンカラ」
 __t, k：撥音化 36.5% (35/96)

● 千葉「モ^ッテク^ンヨ」
 __j：撥音化 15.4% (2/13)

● 山形「ナ^ッサゲ」（なるから）
 __s, h：促音化 66.6% (4/6)

考察

1. 撥音化・促音化の地理的分布

- ・ 東部太平洋側（宮城～福島～茨城）を中心に盛んに見られる。
- ・ 関東では撥音化が好まれ、東北では促音化が好まれる。

2. 撥音化・促音化の相関関係

- ・ 両者の頻度の高低には相関関係が見られる（山形は例外か）。

3. 撥音化・促音化の環境の方言差

- ・ 有声音（t, k/d, g）の影響の有無について方言差が見られる。
- ・ 破裂音以外にも影響の有る方言が存在する。

課題

- ・ 母音の種類による偏り
- ・ スタイルによる偏り
- ・ 形態素境界の種類による偏り（動詞終止形-名詞）

参考文献

上野善道（編）（1989）『日本方言音韻総覧』小学館。
 大橋勝男（1989）『関東地方域の方言についての方言地理学的研究 第一巻』桜風社。
 日野資純（1984）「神奈川県の方言」『講座方言学5』273-3-2, 国書刊行会。
 木川行央・久野マリ子（2012）「神奈川県小田原市方言におけるラ行音の撥音化」*Scientific Approaches to Language* 11, 89-101.